

028 スマートフォンのピンチ操作に注意

LEVEL

必須



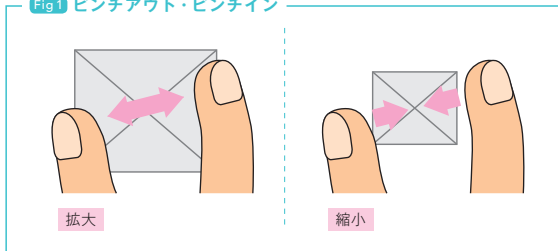
プロ未満

画面の向きと同様に、ピンチアウト・ピンチインもデザインが崩れる大きな原因のひとつです。コーディング後に発覚することが多いですが、その時にすぐ指示が出せるように考えておきましょう。

タッチパネル独自の操作「ピンチアウト＆イン」

スマートフォンやタブレットでは通常、画面の拡大にピンチアウト、縮小にピンチインという操作を行います **Fig1**。この操作も、画面の向きと同様に表示崩れを引き起こしやすいので注意しましょう。

Fig1 ピンチアウト・ピンチイン



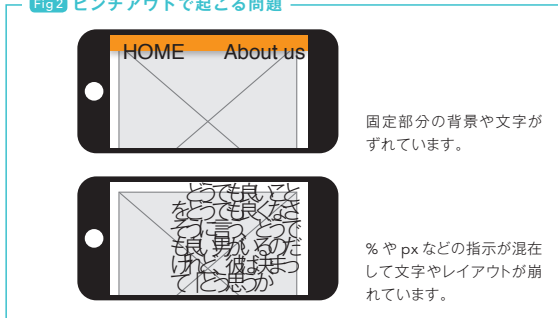
注意

スマートフォンの拡大・縮小はピンチだけではありません。ダブルタップなどでも拡大することができます。ただし、拡大の動きは環境により様々なので、あまりこだわりすぎると実装が困難になります。

ピンチアウトした時に起こる問題点

ピンチアウトで画面を拡大する時の問題は、ほとんどはサイズ指定からくるレイアウト崩れです **Fig2**。

Fig2 ピンチアウトで起こる問題





POINT

- ピンチ操作は固定することもできるので事前に決めておく
- ピンチアウト&インができないと読み(見え)にくい人もいる
- どこの拡大を許可し、どこを拡大禁止にすると崩れないか考える

ピンチアウト&インを許可するかどうか

対策としては、ピンチをさせず固定してしまう方法もあります。こちら画面の向きと同様に、viewportの設定で対応可能です。しかし、ピンチを固定してしまうと、デザインの本質である「見やすさ」を損なってしまうおそれがあるので、どこまで許可するか、どのように動くかなどを考えておくといでしょう Fig 3。

Fig 3 ピンチの対応例



MEMO

これらのアイデアは、CSSやHTMLだけでは実装が難しいものもあるので、JavaScriptなどのプログラムで対応できるか相談してみましよう。